

# ♪ わが家のアイドル ♪



五軒家  
増田 侑史ちゃん（1歳3カ月）  
かわいい笑顔に癒されています!!



彼方  
石垣 誠良ちゃん（2歳2カ月）  
克芳ちゃん（6歳）  
兄弟仲良く元気です。



山手町  
阪口 結有ちゃん（5歳）  
雅成ちゃん（3歳）  
ヤンチャ兄弟!! 仲良く元気に育ってね。

## 宛先

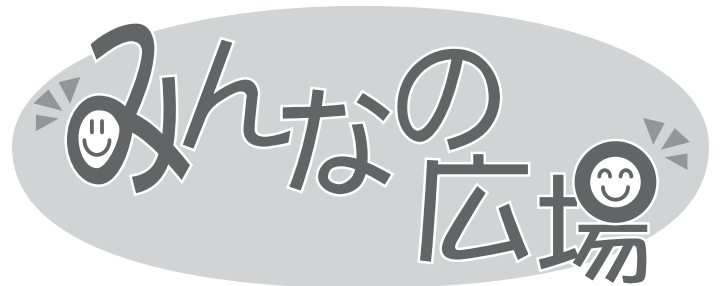
584-8511

住所・氏名(ふりがな)・電話番号

富田林市役所  
情報公開課広報係  
常盤町1番1号

わが家のアイドル（対象年齢は4歳未満、兄弟・姉妹と一緒に写っている写真でも可）は、写真の裏に、**名前（ふりがな）と撮影時の年齢（月齢）**を記入し、**メッセージ（20字程度）**を添えて、封書で左記の宛先まで応募してください。

なお、今応募された場合、掲載は約2カ月後になります。



## 俳句

頂点 日原 輝子選  
今月の詠題「当季雑詠」

秀歌

受診待つ一篇の詩の暖かし

富美ヶ丘町 鶴田 祐子

△選評▽受診を待つときの心理状態を、一篇の詩を以て暖かしと表現した。作句法を心得た秀句、受診待つという不安で大きく切れを生じ、一篇の詩の奥に暖かしと託し、受診待つの不安を大きく浮き上らせた中々の作品。

身にしむや犬には犬の車椅子

宮町 土井 清子

久々の姉の便りや春隣

藤沢台 増山 美栄子

地の色となりふくらめり寒雀

不動ヶ丘町 安倍 葉子

さざんかの咲き急ぎつつ散り急ぐ

錦織東 渋谷 あけみ

半世紀ぶりの霜焼け宿られし

山手町 笹原 秀計

数え日に独居のゆとりページ繰る

錦ヶ丘町 松島 清美

流水のルーツは知らず暖をとる

選者 詠

※4月号は「川柳」を掲載します（なお、応募は2月28日で締め切りました）。

川柳・短歌・俳句は、それぞれ別のはがきで応募してください（1人各5点まで）。市内在住の人で未発表のものに限ります。作品の漢字や氏名には必ずフリガナをつけてください。

5月号の「短歌」は3月31日(火)、6月号の「俳句」は4月30日(木)、7月号の「川柳」(宿題「中心」)は5月31日(日)までに応募(いずれも必着)してください。宛先は上記をご覧ください。

誰もが夢を追うことができる平和な社会を

◆少女の訴え

世界各地では、今もなお争いが続き、何の罪もない子どもたちの命が脅かされています。

昨年未から今年にかけて、10歳代の少女が拉致されたあげく自爆テロを強要され、多くの犠牲者が出たという事件が相次ぎました。

昨年10月に、17歳でノーベル平和賞を受賞したパキスタン出身のマララ・ユスフザイさんは、そのスピーチの中で、「1本のペンと1冊の本が世界を変える。教育こそが唯一の解決策です。エデュケーション・ファースト（教育第一）」と話されました。ユスフザイさんは、一人一人のかけがえない命を大切に、平和な社会を形成していくためには教育が最も重要だということを世界中に強く訴えられました。

◆「人」を育む

今年度100周年を迎えた富田林幼稚園の設立趣意書には、「1年の計は穀物を植えるにあり、10年の計は樹を植えるにあり、100年の計は人を植えるにあり」と記されています。この設立趣意書では、まさしく100年後の社会を形づくるのは「人」であり、「人」を育む、教育の重要性が示されています。

◆子どもの権利条約

また、子どもの人権の尊重や権利の確保を規定した「子どもの権利条約」には、「育つ権利として、教育を受けることができる」と記されています。

しかし、世界中には紛争や貧困などさまざまな理由で学校に通うことができない子どもが10人に1人の割合にいるといわれています。

全ての子どもが等しく教育を受け、豊かな未来を描くことができる世界をつくるためには、まだまだたくさんの課題を乗り越えなければなりません。

◆「生きる力」の育成～本市の教育活動～

現在、学校園教育では「生きる力」の育成がますます重要となっています。

そこで本市ではこれからも「学力」「体力」「豊かな心」をはじめ、これからの社会を拓くために必要な「自ら課題を見つけ、他者と協働しながら解決する力」を育む事をめざし、教育活動を展開したいと考えています。

本市で学ぶ子どもたちが、自らの夢を実現し、全ての人が平和で豊かに暮らしていける社会づくりに貢献してくれることを心から願っています。

教育指導室（内線364）



錦織南遺跡の発掘調査

本市が25年度に実施した発掘調査では、二つの大きな成果が挙げられました。

一つは、飛鳥時代のものと思われる陶硯（陶製の硯）が出土したことで注目された畑ヶ田南遺跡です。

そしてもう一つは、畑ヶ田南遺跡と同時期に調査をしてきた錦織南遺跡です。近鉄長野線「滝谷不動駅」から、線路沿いに600ほど南下した地点で、25年9月から12月にかけて、開発に先立って発掘調査を実施しました。

これまでも調査地周辺では発掘調査が実施されており、近鉄長野線の線路を挟んだ東側では縄文時代の土器を含む石川の旧河道が見つかり、西側では古代から中世の建物跡などがわずかに確認されています。

調査前は、今回の調査地においても、過去の調査成果に近い状況になるのではないかと考えていましたが、調査を進めていくと、当初の予想を大きく上回る、たくさんの遺構や遺物が出土しました。

特筆すべき成果としては、竪穴建物跡が10棟、掘立柱建物跡が6棟と、たくさんの建物跡が見つかったことです。竪穴建物については、何棟も重なり合った状態で見つかったものもあり、同じ場所

トポレ掘発財文化蔵埋

で何度も建て替えられていたことが分かりました。竪穴建物の時期については、出土した土器から、主として古墳時代後期（6世紀末）から飛鳥時代初め（7世紀初め）頃と思われる。

掘立柱建物の時期は、出土遺物が少なく判断が難しいところですが、一部の掘立柱建物については、竪穴建物が埋まっていた土の上から柱穴が掘られていたので、その掘立柱建物が竪穴建物よりも新しい時期のものであるということとは分かりました。

周辺で実施された過去の調査では、古墳時代後期までさかのぼる集落跡は確認されていません。また、たくさん建物跡が集中して見つかることも初めてです。

このような成果から、今回の調査地が古墳時代後期から飛鳥時代にかけて、周辺一帯の中でも当時の集落の中心地であったと思われる、錦織南遺跡の性格を検討する上で非常に重要な成果が得られたものと考えています。



錦織南遺跡で見つかった竪穴建物跡

文化財課（内線507）